

〈結論〉この校歌は初めハ長調で作曲されたが、音が高いという理由で変ロ長調に下げられて現在に至っていると推測されます。おかげで、吹奏楽には編曲しやすく、創立40周年の折には一メロをモチーフとした、ホルンから始まる序奏部を加えることができました。作曲者が特定できませんが素性のよい校歌であることは間違いありません。みんなで100年歌い継ぎたいですね。



ブラスバンド部定期演奏会（一宮市民会館）

二度の卒業

入野勝年

春の人事異動で、18年間勤務した愛する母校を離れることになりました。西高大好き人間である私にとつて、覚悟していた転勤とはいえ、いざとなると、高校時代を含めた数々の思い出が脳裏を駆け巡り、強く後ろ髪を引かれました。西高での勤務最終日、多くの先生方に見送っていただいた折には、熱くこみ上げて来るものを抑えることができませんでした。私が西高に生徒として入学したのは、学校群制度の3年目で、入学先は、伝統校である相手校が西高に振り分けられていました。意のままにならない結果を甘受するか、逆に、高校入試制度との幸運

な巡り合わせに感謝をするか、複雑で奥深い心境を整理するには、15歳の中学生にとつては荷が重すぎる運命でした。

私の西高生活は、緊張感の中、意外にも満足感で始まりました。満開の桜の下で行われる猛々しい運動部の勧誘合戦や音楽部の楽しそうな合唱で出迎えられた入学式。この時、1年後には自分がこの場に立つて歌っているとは、どうして想像できたでしょうか。

オリエンテーション合宿、遠足、修学旅行、球技大会、部活動合宿、西高祭、全定交流会、林間学校、スキー訓練、予餞会など、時間がいくらあっても足りないほどの学校行事がありました。学校週5日制の導入による時間的な制約で、一部の行事は精選されたものの、とりわけ学校祭は、西高の看板行事として、昔も今と変わらず盛大に行われていました。

当時は昼間定時制もあり、教室の窓越しにぼうつと外を眺めていると、午前中の仕事を済ませて送迎バスから教室に向かう少し大人びた女子高生の列が目に入り、同じ高校生として、気を引き締められることが何度もありました。

このような充実した教育活動を支える当時の西高の先生方には、大きな使命と課題がありました。「悔し涙で西高に入学しても、うれし涙で卒業させよう」という強い決意と重責。生徒の立場では知るすべもなかった先生方の献身的な努力と熱意は、西高の教師になつて初めてわかったことです。

進路実績をはじめ、何かにつけて伝統校と比較される中、西高としての独自性を模索しながら、知性あふれる心豊かで逞しい生徒を育てたいという熱い思いは、具体的な試みとして実践され、成果を上げていきました。希望者を対象とした補習が始まったのも、この頃からと記憶しています。学校群から複合選抜制度へ、さ

らに学校週5日制や大学入試改革、新教育課程など、教育を取り巻く環境は目まぐるしく変化化しています。しかし、西高は、時には容赦なく突きつけられる無理難題にも、時代の先取りしつづつ対応し、今の姿を築き上げてつきました。このような時代の中で、西高の教師の一人として過ごせたことは、大変幸せに思います。

特に、生き残りを賭けて、学校群から複合選抜への過渡期を乗り越えてこられた先輩の諸先生方から学んだことは、枚挙にいとまがありません。「西高に来て良かった」と思える学校にしようという教師の思いと、何よりもそれに応えてくれる生徒たちがいたからこそ、西高が西高としての独自性を維持し続けて来られたのだと確信しています。このような「西高魂」は、創立以来半世紀を迎える今でも、教師から教師へ、生徒から生徒へと受け継がれています。

西高という学舎で、人間的に大きく逞しく成長していく生徒たちの姿を見ることは、教師冥利であります。私自身も、この18年間、一人の人として、生徒とともに成長させていただきました。高校生として、また、再度教師として西高と出会えたことは、偶然ではなく必然的な運命であると、改めて感謝をいたします。

最後になりましたが、西高と西高同窓会の益々の発展を心よりお祈りいたします。

修学旅行俳句 秀逸作品

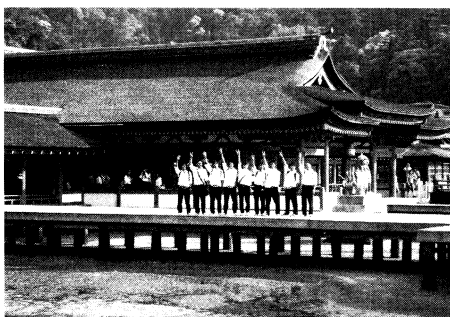
「消えない火消しても消えぬ ヒロシマの日」

「夏シャツで幕末の世へ 時を駆け」

「駅で待つ母の顔見る初夏の夕」

快晴に恵まれた今年の修学旅行 (5月16日) 18日 広島・山口

において、二年生全員に思い思いの俳句を詠ませました。冒頭の三句はその中から選ばれた優秀作品です。普段の生活から離れた修学旅行に、生徒達の心のびのびと楽しんでいたように思われます。また、修学旅行を楽しむだけでなく、歴史等を学ぶことについても真摯に取り組んでいたようでした。この同窓会報にも写真を2枚 (秋吉台 宮島) 掲載しました。生徒達の感動をお伝えすることができたのなら、何よりのことと思えます。なお、来年度の修学旅行も今年度とほぼ同じ行程で実施の予定です。



修学旅行 (宮島)



修学旅行 (秋吉台)

昨年度の同窓会活動報告

一、同窓会総会の開催

平成二十三年八月六日(土)一宮スポーツ文化センターで開催。旧・現職員、一般会員合わせて八十一名の参加をいただきました。

二、「同窓会報」第二十六号の発行
平成二十三年七月七日に発行いたしました。

三、同窓会郵送料カンパの実施
今年度も別記のとおり実施いたしますので、ご協力よろしくお願いたします。

四、東京支部会の開催
平成二十三年十二月三日(土)新宿にて開催。西高側からは、祖父江教頭、同窓生でもある水谷悟先生が出席され、合わせて十四名の参加がありました。

五、同窓会入会式および卒業記念品贈呈式
平成二十四年二月二十九日(水)に実施されました。第四十六回生三百十四名が同窓会に入会し、一般会員総数は一七〇九二名になりました。また、卒業生には、卒業記念品として、証書筒を贈呈しました。

同窓会費納入及び協力金のお礼

昨年度も例年通り同窓会費(年間二千円)の納入をお願いいたしましたところ、二百二十四名の方から会費をいただくことが出来ました。同時にお願いたしました協力金とあわせて、五十八万三千九百二十円をいただくことが出来ました。ご協力ありがとうございました。今年度も、年会費二千円とは別に、一口千円を協力金としてお願いたします。同封の振込用紙をご利用の上、郵便局からお振込ください。よろしくお願いたします。